

2024年度

# 特別支援教育通信

2024年6月6日（木）発行

江別市立大麻東小学校 特別支援教育部



気持ちのいい青空の下、無事運動会が終了いたしました。子どもたちは練習の成果を十分に発揮し、真剣に競技に取り組んだり仲間を応援したりしていました。運動会の取り組みを通して学んだことを、今後の学校生活に生かしてくれることと期待しています。一生懸命頑張っている子どもたちにあたたかいご声援ありがとうございました。今号では、文部科学省のHPにのっている文章の一部「**子供の理解と保護者の心構え**」について紹介します。ここでは障がい名で記載されていますが、「生活や学習上で困っていることがある児童」とことばを置き換えて読んでみても、参考になる部分があるかと思います。子どもたち一人ひとり、得意なことや苦手なことが違います。(2) 子どもの心のケアについては、全ての保護者に共通していることかと思しますので、ご一読していただければ幸いです。

## (1) 子どもの気付きと理解

早期の気付きと、早期からの支援が後の子どもの成長発達に効果的なことは言うまでもありません。子どもに何らかのつまずきがあるのではないかと気付いた場合は、早いうちに専門機関等に相談し、場合によっては診断を受けておくことが望まれます。

LD、ADHD、高機能自閉症は、全般にわたり発達に遅れがあるわけではないので、気付くことが難しいと言われることがあります。しかし、その一方で、親の会の調査によれば、言葉の遅れ、特定のものへのこだわり、動作がぎこちない、集団行動が取れない等の特性から、大半の保護者は3歳位までに子どもに何らかの障害があるのではないかと気付いています。

LD、ADHD、高機能自閉症の子どもたちは、幼児期には診断が難しい場合や、その状態が成長に従って変わってくる場合もありますが、保護者は子どもが得意なこと、苦手なこと等、子どもの特性をきちんと把握し理解した上で、それに合わせた援助や療育に将来を見据えて取り組んでいくことが大切です。

## (2) 子どもの心のケア

LD, ADHD, 高機能自閉症の子どもたちは、一所懸命やっているのに勉強がうまくいかない、周囲から仲間はずれにされ、忘れ物をして先生から叱られる等、成功体験が少なくストレスを貯め込んで、自信を失ってしまったりする場合があります。こうしたことの積み重ねで意欲を失ってしまったり、いわゆる二次的な障害に陥ったりする場合もあります。家庭内では、小さな成功体験の場を作ったり、よいところを誉めたり、好きな遊びの時間を作ったり、自信を付けさせたり、精神的に解放される場面を作ったりすることが大切です。

また、本人が自分は他の人とはどこか変わっていると気づき、思い悩む時が来ます。子どもがそのようなサインを出して来た時には、子どもの不安を解消するために、子ども自身の自分への気づきに添って説明することが必要です。子どものよい点を話題にし、人はそれぞれ個性や違いがあり、得意なことや苦手なことがあること、障害や困難は子ども自身のほんの一部に過ぎないこと、苦手な部分を補うためには努力が必要なことなどを、子どもの自尊心を尊重しながら、理解できるように説明することが大切です。

さらに、保護者は親として子どもの養育に取り組むだけでなく、よき支援者であることが求められます。時として叱ったり、厳しく教えたりすることも必要となりますが、そうした中にも子どもが常に保護者の愛情を感じ取れるよう心がけ、子どもの心を支え続けるよき理解者として、共に歩んでいくことが大切です。

診断名の有無にかかわらず、本校では、支援を必要とする児童の教育的ニーズを把握し、当該児童の力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育を通じて必要な支援を行い、自立につなげることを基本としています。

連携しながら、それぞれの場（家庭、学校、専門機関[教育委員会、児童相談所、医療機関、放課後等デイサービス etc...]など）でできることをしていきましょう。

気になったことがあれば、いつでも特別支援教育コーディネーターまで連絡してください。